

中断の対応

※WBGT31℃以上となった場合、中断の対応は必ず行ってください。現場責任者は熱中症対策を徹底して行うようお願いいたします。事前に中断時の流れを確認し、スムーズに対応できるように配慮してください。

基本的に安全対策マニュアルをしっかりと実施したうえで、以下の記載内容を行う事とする。

【WBGT 計が 31℃以上となった際の対応】

- ① 現場責任者(競技実行委員長)が運営本部・運営部(担当大学)の日直への連絡を行う。
- ② 現場責任者が決められた`タイミング`⁽¹⁾で競技の中断を行う。
- ③ 日直から`チェック項目`⁽²⁾をきちんと行うよう伝えられる。
- ④ 現場責任者は、その会場にいる大学の代表者を招集する。派遣医師の助言をもとに注意喚起するとともに、中止を視野に入れて協議を行い、『中止か再開か』について多数決をとった上で、競技実行委員長が競技の中止または再開を決定する。再開の場合は細心の注意をはらって残りの競技を行う。
- ⑤ 競技が中止／再開されることが決まったら、現場責任者が日直に連絡を行う。
- ⑥ 再開の場合、現場責任者は、日直から`チェック項目`⁽³⁾をきちんと行ったか確認を受ける。
- ⑦ 中止／再開

(1) タイミング 中断のタイミング。

(2) チェック項目 【WBGT 計が 31℃以上となった際のチェック項目】

(3) チェック項目 【競技再開が決定された際のチェック項目】。

(1～(3)の資料に関しては以下参照。

※ 注意事項 ※

- ・WBGT31℃以上となったとき、大会の中断は試合中・試合間ともに必ず行う。
- ・WBGT が 31℃を下回るまで待機したりせず、中止か再開かについて決定する。
- ・競技再開後、熱中症発症者が増えた場合、競技実行委員長は競技の中止を検討する。
- ・WBGT28℃を下回るまで【競技再開が決定された際のチェック項目】を満たし続ける必要がある。
- ・WBGT が 31℃以上になっていない場合でも、危険と判断した場合は、競技実行委員長は大会の中断を行うことができる。
- ・中断の対応については公開練習日にも適用される。
- ・中断となった際、上記の流れに従いチェック項目を全て点検する。
- ・WBGT の測定者が試合に出ている場合は、代理を立てる。
- ・中断をするときは、競技実行委員長が試合に出ている場合、現場責任者が中断の指示をする。
- ・競技実行委員長が競技会場に不在の場合、現場責任者は事務処理(日直への連絡、競技の中断など)を行い、再開・中止の最終決定は競技実行委員長に電話で連絡をとって行う。
- ・試合などにより電話対応ができない、ということがないように準備しておく。
- ・上記の④における多数決について。基本的に会場にいる各大学の主将が協議・多数決に参加する。しかし、競技会場が複数存在し、会場にいる大学数が少ない場合は、審判長・派遣医師の意見を積極的に取り入れ、競技実行委員長が最終決定する。

★中止となった場合の東医体総合得点の配分について

熱中症対策において、競技実行委員長が中止を決定した際、競技が最後まで終了しない可能性がある。その場合には、競技ごとに定められた方法によって東医体総合得点を配分する。競技が中止となった場合でも、競技に与えられた東医体総合得点は成績上位校にすべて配分する。ただし競技が一定の基準まで進行していないときには、全参加校に均等に得点を配分することもある。

参加校数が変更となった場合は、得点配分を変更することがある。
また、この項目は毎年度競技実行委員長が改訂を行う必要がある。

陸上競技

中断のタイミング:

WBGT 計が 31℃以上になった場合、また悪天候により明らかに競技続行が困難であると審判者や大会運営者が判断した場合、アナウンスにより、競技中のレースが終わり次第一度必ず中断する。また電光掲示板による注意喚起に加えて、各主将にメーリスを流し直ちに主将会議を行う。

【WBGT 計が 31℃を超えた際のチェック項目】

- 散水を行った。(今大会で使用する千代台陸上競技場にはスプリンクラーは設置されていないため、水まきとする。)
 - 給水を設けた(競技中・競技後において)。
 - 水分・塩分補給をするようアナウンスした。
 - 体調の悪いものは申し出るようアナウンスした。
 - 体を冷やす行為を行うよう呼びかけた。例)氷嚢で頭や首の後ろを冷やす。
 - 応援者、招集中の選手を日陰など直射日光の当たらない所に移動させた。
 - 日差しを避けるものを義務化した。例)帽子、サンバイザー、日傘など
 - 審判者や大会運営者も適宜水分・塩分補給するようアナウンスした。
- *WBGT 計が 28℃を超えた時にもチェック項目を行う。

【悪天候により競技の続行が困難だと判断された際のチェック項目】

- 体調不良者は申し出るようにアナウンスした。
- トラックやフィールド内にあるものやテントなどが暴風で倒されたり飛ばされたりしないよう整備した。
- 雷の場合、木から十分に離れ、直ちに屋内に退避するようアナウンスした。
- 審判、補助員等を含めた全ての大会関係者が安全な場所に移動するようアナウンスした後、誘導した。

【競技再開が決定された際のチェック項目】

- 選手の競技前の招集場所を日陰にするなど考慮した。
- 選手だけでなく、応援者やマネージャーも給水を取るようアナウンスした。
- 審判員、補助員、他大会関係者の体調を確認した。
- スタンドにいるものに対して、長時間の直射日光を浴びないようアナウンスをした。
- トラック及びフィールドのコンディションのチェックを行った。
- 各種目終了時などに適宜雨雲・雷レーダーのチェックを行った。(悪天候時)

中断後、再開する場合：

派遣医師の助言、主将会議の判断を基に、東医体実行委員長が再開を決定する。中断したレース後に予定しているレースは、再開後引き続き行う。

中止する場合：

派遣医師の助言、主将会議の判断を基に、東医体実行委員長が中止を決定する。その場合は、その日の残りの競技がすべて中止される。競技開催は元々二日間しか予定していないため、一日目に競技が中止されたとしてもその競技を二日目に持ち越すことはしない。二日目に競技が中止されたとしても、後日、日を改めて競技を実施することはない。

★中止となった場合の東医体総合得点の配分について

もし、全競技が終了しなかった場合、約 3/4 の競技数である 24 競技を行えた場合にはその終了時の点数で順位を決める。23 以下の場合には男子女子共に一律に陸上競技の総得点を出場校数(男女別)で割った点数を与えるものとする。終了しなかった競技については順位決定しないものとする。また最終決定は主将会議に一任し、承認されなかった場合には競技に得点は与えられない。

硬式野球競技

中断のタイミング:

31℃以上になった時点での打席が終わった時。場内アナウンスにより放送します。

【WBGT 計が 31℃以上になった際のチェック項目】

- 選手、審判、補助員は直射日光の当たらない涼しい場所(ベンチなど)に移動した。
- 防具を身につけている人間は防具を外した。
- グラウンドに水をまいた。
- 水分補給・塩分補給を行った(選手、マネージャー、審判、大会関係者、補助員)。
- 観客、応援者に対してアナウンスをした(WBGT についての説明と WBGT 計が 31℃となったこと、水分補給・塩分補給をすること、直射日光の当たらない場所への移動)。
- 氷嚢やうちわで体温を下げる行為を行った。
- 選手はユニフォームを緩め、風通しをよくした。

【競技再開が決定された際のチェック項目】

- 選手、マネージャー、審判、大会関係者、補助員は回の合間に必ず水分、塩分補給を行うことを義務化した。
- 1 回の守備が長時間に及ぶ場合、試合を中断することがある。その際、選手と審判および補助員は水分補給を行う。
- 回の合間の休憩時間を必要に応じて長くする。
- 必要に応じてグラウンドに水をまく回数を増やす。

《中止する場合(その日一日の競技が中断される)》

(1) 中断した試合の取り扱い

① 試合成立前に中止する場合は硬式野球競技ではサスペンデッドゲーム制を採用し、中断した試合を、中断した箇所から翌日にもう一度行う。

(一回戦・二回戦においては合計の時間がそれぞれの制限時間内になるように注意する。)

② 試合成立後に中止が決定された場合は最後の回までの得点により勝敗を決定する。

③ 試合成立後でも同点の時に中止が決定された場合、サスペンデッドゲームとし、中断した試合を、した箇所から翌日に行うようにする。

④ 決勝リーグにおいて延長戦の途中で中止が決定した場合もサスペンデッドゲームとし、中断した試合を、中断した箇所から翌日に行うようにする。

(2) 中断した試合の後に予定している試合(残りの試合)の取り扱い

① 翌日および、予備日の間に延期が可能な場合

残りの試合を翌日に延期して後日開催する。

②翌日もしくは予備日の間に延期が不可能な場合

その場合各大学の主将を集めて臨時主将会議を行う。

この場合、東医体をすべて行うことは不可能であると考えられる。

《 中断後、再開する場合 》

(1) 中断した試合の取り扱い

試合の成立不成立関係なく、中断した試合を中断時の状況から始める。試合時間の短縮を行う。

1、一日三試合が予定されている場合(一回戦)

2 時間 30 分経過時点で 9 回まで試合が進んでいない場合、次の回には入らない。

2、一日四試合が予定されている場合(二回戦)

2 時間 20 分経過時点で 9 回まで試合が進んでいない場合、次の回には入らない。

第四試合を行うことができない場合は、予備日に残りの試合を行う。

3、決勝リーグの場合(決勝戦・三位決定戦)

時間の短縮は行わない。

(2) 中断した試合の後に予定している試合(残りの試合)の取り扱い

残りの試合を試合時間の変更をせず行う。

★中止となった場合の東医体総合得点の配布について

硬式野球競技は持ち点が 10 点である。

・一回戦も行えなかった場合

参加校に点数を均等に配分する。

・一回戦まで行えた場合

参加校に点数を均等に配分する。

・二回戦まで行えた場合

ベスト 4 のチームに 2.5 点ずつ配分する。

・一方の準決勝しか行えなかった場合

ベスト 4 のチームに 2.5 点ずつ配分する。

・準決勝までしか行えなかった場合

決勝へ進出するチームに 3 点ずつ、準決勝で敗退したチームに 2 点ずつを配分する。

・三位決定戦しか行えなかった場合

決勝へ進出するチームに 3.5 点ずつ、3 位に 2 点、4 位に 1 点を配分する。

(悪天候の際の動き)

大雨、落雷、暴風などの際に試合の続行が不可能と主審が判断した場合、一時中断する。また、アナウンスを行い、観客に中断を知らせる。両チームは屋内などの安全な場所に一時待機する。

一時中断した後、試合の再開を行うかどうかは主審及び両チームの主将を招集し、主審の判断をもとに話し合いにて決定。

準硬式野球競技

中断のタイミング:

31℃以上になった時点に行われていた打席が終わったとき

悪天候(豪雨、暴風、落雷)により現場責任者や審判、各校の代表者の協議によって試合続行が困難であると判断されたとき

WBGT 計の値に関わらず、派遣医師の助言のもと競技実行委員長が競技続行に支障があると判断したとき

場内アナウンスによって行われる

【WBGT 計が 31℃以上となった際のチェック項目】

- 具合が悪い人は申し出るようにアナウンスをした。
- 応援者を日陰など直射日光の当たらない所に移動させた。
- 審判員、補助員、他関係者へ配慮(飲水や日よけ対策の指示)を行った。
- 帽子、日傘など日差しを避けるものを義務化した。
- 各チームに熱中症の人やその疑いがある人がどれだけいるか確認した。

【競技再開が決定された際のチェック項目】

- 各イニングが終わるごとに WBGT 計が31℃を下回っていることを確認した。
 - 散水、整備を行った。
 - 回(守備や攻撃)が終わるごとに特に選手、審判、補助員に対して水分補給を行うよう指示した。
 - 氷嚢で体を冷やす等の行為を行った。
 - 1回の守備が長時間に及ぶ場合、試合を中断することを検討した。
- その際、選手と審判は水分補給を行った。
- イニングの合間の休憩時間を必要に応じて長くする。

【悪天候により競技の続行が困難だと判断された際のチェック項目】

- 怪我人、具合が悪い人は申し出るようにアナウンスした。
- 暴風によって道具が飛ばされないように整理した。
- 審判、補助員、他大会関係者に対し速やかに安全な場所へ避難するように場内アナウンスをした。
- 特に選手に関しては体温を低下させないようタオルで身体を拭く、アンダーシャツの着替えをするなどを行うよう指示した。

【競技再開が決定された際のチェック項目(悪天候時)】

- インターネットで雨雲や暴風、雷雲が通り過ぎていることを確認した。

- 各イニング終了時に天気予報を確認し特に雷雲に対しては早めに中断するか協議を行う。
- 随時応援者や観客などに対して身の安全を守るように場内アナウンスを行った。

《中止する場合(その日一日の競技が中断される)》

(1) 中断した試合の取り扱い

野球規則により5回まで終了した試合は試合成立となっているのでそれに従う。

(2) 中断した試合の後に予定している試合(残りの試合)の取り扱い

予備日が2日間あるのでその範囲で行う。予定していたすべての試合が行われない場合は2校同時優勝や東医体総合得点の配分などの特別措置をとる。

《中断、再開する場合》

(1) 中断した試合の取り扱い

再開する際は中断時の状況から続行する。

(2) 中断した試合の後に予定している試合(残りの試合)の取り扱い

会場を借りている時間の都合もあり、我々の試合はながくても2時間半で終わることがほとんどなので、会場を使える時間が2時間半以上残されていた場合には次の試合も行う。

★中止となった場合の東医体総合得点の配分について

(1) 1回戦・2回戦が終わらなかった場合

参加校に均等に点数を配分する。

(2) 3回戦が終わらなかった場合

ベスト8のチームに3.125点ずつ配分する。

(3) 準決勝が終わらなかった場合

ベスト4のチームに5.25点ずつ、5～8位に1点ずつ配分する。

(4) 準決勝の結果が分かっている場合

決勝進出するチームに7点ずつ、3位決定戦に進むチームに3.5点ずつ、5～8位に1点ずつ配分する。

(5) 決勝戦以外終わっている場合

決勝進出するチームに7点ずつ、3位のチームに4点、4位のチームに3点、5～8位に1点ずつ配分する

テニス競技

WBGT 計にて 31℃以上が観測された場合、一度競技を中断し、派遣医師の助言のもと競技実行委員長が競技の再開・中止を決定する。

中断のタイミング:各試合で現在行われているポイントが終了次第、中断する。

【WBGT 計が 31℃以上となった際のチェック項目】

- WBGT 計が 31℃以上となり、熱中症が非常に発生しやすい状況であることをアナウンスした。
- 体調が悪い人は無理をせず申し出るようにとアナウンスをした。
- 水分補給・塩分補給を促した。
- 中断した時点で各大学の部員の健康状態を競技実行委員に報告した。
- 氷嚢などを用いて体を冷やすようにとアナウンスした。
- 日陰で選手、審判、応援の人も休ませるようにした。(アナウンスが聞き取れる日陰にて休んでもらう)
- サンバイザー、帽子などの着用を呼び掛けた。

【競技再開が決定された際のチェック項目】

- 選手のみでなく応援、審判、ボーラー全員に水分をしっかり摂るようにアナウンスをした。
- 体調不良者が出た時運営本部に伝えるようにアナウンスした。
- 日陰の確保や、帽子の着用、こまめに汗を拭くようにアナウンスをした。
- アナウンスで会場にいる全ての人に熱中症予防の注意喚起を促した。
- 1ゲームごとに水分補給をするようにアナウンスした。
- 新たに熱中症にかかった人がいないか確認した。

また、WBGT 計の値に関わらず、派遣医師の助言のもと競技実行委員長が競技続行に支障があると判断した場合は、競技を一度中断し、派遣医師の助言のもと競技の再開・中止を決定する。

《中止する場合(その日一日の競技が中断される)》

(1) 中断した試合の取り扱い

中断した試合を、中断した箇所から翌日の朝再開する。

(2) 中断した試合の後に予定している試合(残りの試合)の取り扱い

例年、予定されている日程を当日に消化できなかった場合、翌日早朝から中断した試合を再開させているため、同様の扱いとする。

短縮を決定する際、予備日を使ってもダブルヘッダーにしなければ全日程を消化できない、中断された試合を早朝に再開しても日程の遅れを取り戻せない、等の状況を主管が判断し、決定する。短縮の際、8 ゲームタイブ레이크マッチとする。

全日程を終了することができなかつた場合、予備日が終了した時点ですべての試合を打ち切り、引き分けとする。

《中断後、再開する場合》

(1) 中断した試合の取扱い

中断した状況から試合を再開する。その際試合の短縮は行わない。

(2) 中断した試合の後に予定している試合(残りの試合)の取扱い

中断以後の試合数・天気・中断した試合が終了した時間等から、試合を短縮するか否か決定する。

《悪天候(豪雨、暴風、落雷)の際の動き》

雨などの悪天候による試合の中断は、主管の判断によるものとする。中断の際には、各コートのコートレフリーに電話、あるいは主管が直接出向いて中断の旨を伝え、コートレフリーにより中断の宣言を行う。

試合中断時には、近くの屋根の下へ避難する、傘をさすなど、雨に濡れることによる体温の低下を各人が意識して防ぐこと。

再開については、コートの状況を見て主管が判断し、同様に各コートに連絡する。コートによって水はけの良し悪しが異なるため、コートごとに個別に再開できるか判断する。

★中止となった場合の東医体総合得点の配分について

予備日が終了した時点ですべての試合を打ち切り、引き分けとする。ポイントは予備日終了時点で勝ち残っている大学に均等に割り振るものとする。ただし、大学によって日程の進行に差がある場合、最も日程の進行の遅い大学に日程の進行を揃え、成績、ポイントを決定する。

(例えば、3 回戦が終了していない大学があった場合、3 回戦全ての試合を無効試合とする。この場合 3 回戦に勝利した大学も、敗退した大学も、3 回戦を終了していない大学と同様に扱い、ポイントを均等に配分する。)

但し、試合日程がベスト 4 を決定し、そこで中止した場合(準決勝で中止した場合)、5 位から 8 位に第 1 回主将会議で決定したポイント(1 ポイント)を与え、残りのポイントをベスト 4 で均等に配分する。決勝戦、3 位決定戦に関しても同様の対応を行う。

ソフトテニス競技

中断のタイミング:各試合で現在行われているポイントが終了次第、中断する。

【WBGT 計が 31℃以上となった際のチェック項目】

- WBGT 計が 31℃以上となり、熱中症が非常に発生しやすい状況であることをアナウンスした。
- 選手だけではなく応援している人、審判も水分補給・塩分補給をするようにアナウンスをした。
- 同時に体調が悪い人は本部に申し出るように伝えた。
- 必ず日陰ないしは屋内(各大学の陣地など)で休むようにアナウンスした(競技を中断している選手や審判の人は、アナウンスが聞き取れる日陰にて休んでいてもらう)。
- 氷嚢等で体を冷やすようアナウンスした。

【悪天候(豪雨、暴風、落雷)の際のチェック項目】

- コート内を含む地面が大変滑りやすいことを注意喚起としてアナウンスした。
- 屋内に一旦避難するようにアナウンスした。

【競技再開が決定された際のチェック項目】

- 1 ゲームごとに水分補給の時間をとるようにアナウンスした。
- 帽子を着用し、こまめに汗を拭くようにアナウンスした。
- 審判や応援している人も必要に応じて水分補給をするようにアナウンスした。
- 体調が悪い人は本部に申し出るように伝えた。

《中止する場合(その日一日の競技が中断される)》

(1) 中断した試合の取り扱い

中断した試合を、中断したポイントから翌日もう一度行う。

(2) 中断した試合の後に予定している試合の取り扱い

残りの試合を翌日等に延期して後日開催する。最終日の中止に関しては予備日で対応する。

ただし、中止が 2 日以上続いた場合 1 日の予備日を設けているが、2 日以上の中止があると予備日を使っても全試合を消化できないと考えられる。その場合各大学の主将を集めて臨時主将会議を行い、団体戦を途中でやめて個人戦に移る、団体戦を最後まで行う、など状況に応じた対応を協議する。

《中断後、再開する場合》

(1) 中断した試合の取り扱い

再開する場合、中断したポイントから再開する。

(2) 中断した試合の後に予定している試合(残りの試合)の取り扱い
 ナイター設備を使用し、残りの試合を行う。

★中止となった場合の東医体総合得点の配分について

ソフトテニス競技では団体戦の結果で得点配分を行っている。男子、女子ともに参加校は 30 チーム以上なので 30 点を配分している。団体戦は参加大学を 6 グループに分け予選リーグ戦を行い、各グループの上位 2 校が準決勝トーナメントに進む。準決勝トーナメントでは勝ち上がった 12 校を抽選で 4 校ずつの 3 つのトーナメントに分けてトーナメント戦を行い、各トーナメントで 1 位になった大学は 1～3 位決定リーグ、各トーナメントで 2 位になった大学は 4～6 位決定リーグへと進む。以上がソフトテニス競技の団体戦の主な流れである。以下に進行状況に応じた得点配分案を記す。

①全ての日程を消化できたとき

[男子案]

・現在の参加数:30 チームの場合(30～34 チーム)

順位	1	2	3	4	5～8	9～12
得点	9	7	5	3	1	0.5

・参加チームが減った場合(25～29 チーム)

順位	1	2	3	4	5～8	9～12
得点	7	5	4	3	1	0.5

[女子案]

・現在の参加数:30 チームの場合(30～34 チーム)

順位	1	2	3	4	5～8	9～12
得点	9	7	5	3	1	0.5

・参加チームが減った場合(25～29 チーム)

順位	1	2	3	4	5～8	9～12
得点	7	5	4	3	1	0.5

②リーグ戦を消化できなかつたとき

総合順位をつけることはせず、男子女子共に一律にソフトテニス競技の総得点を出場チーム数(男女別)で割った点数を与えるものとする。つまりリーグ戦を消化できなかつた場合、1 点(参加チームが減った場合は 0.86 点)が競技に参加した全チームに与えられる。

③準決勝トーナメントを消化できなかつたとき

(1)1 回戦を消化できなかつた場合

現在の参加数の場合:予選リーグ1位突破校6校の内最も予選リーグの成績が良い1校4.5点、他の1位突破校5校には2.7点、予選リーグ2位突破校の6校には2.0点の計30点を配分する。

参加数が減った場合:予選リーグ1位突破校6校の内最も予選リーグの成績が良い1校3.5点、他の1位突破校5校には2.5点、予選リーグ2位突破校の6校には1.5点の計25点を配分する。

なお、予選リーグの成績については勝ち取った試合数をもとに決定する。

ただし勝ち取った試合数が等しい場合には、勝ち取った総ゲーム数で成績を決定する。

さらに勝ち取った総ゲーム数も等しい場合は、勝ち取った総ポイント数で成績を決定する。

(2)1位2位決定戦を消化できなかったとき

現在の参加数の場合:1回戦の成績が良い上位3校に4.5点、他の3校に3.5点、7～8位に2点、9～12位に0.5点の計30点を配分する。なお、1回戦の成績については勝ち取ったゲーム数をもとに決定する。

参加数が減った場合:1回戦の成績が良い上位3校に4点、他の3校に3点、7～8位に1点、9～12位に0.5点の計25点を配分する。

ただし勝ち取ったゲーム数が等しい場合には勝ち取った総ポイント数で成績を決定する。

④1～3位決定リーグ、4～6位決定リーグを消化できなかった場合

現在の参加数の場合:1～3位校に4.5点、4～6位校に3.5点、7～8位校に2点、9～12位校に0.5点の計30点を配分する。

参加数が減った場合:1～3位校に4点、4～6位校に3点、7～8位校に1点、9～12位校に0.5点の計25点を配分する。

卓球競技

- (1) WBGT 計の温度に関わらず、熱中症と疑われる選手が発生した時点で中断を検討する。
- (2) WBGT 計が 31℃を超えた時点でコールを一時中断し、その時点で行っている試合のセットが終了したタイミングで、冷房・換気のための時間をとる。
- (3) 競技再開後、もしくは、WBGT 計の温度に関わらず派遣医師の助言によりこれ以上の試合続行は難しいと判断した場合や、熱中症が疑われる選手が多数発生した際、競技実行委員長は競技の中止を検討する。

【WBGT 計が 31℃以上になった際のチェック項目】

- 可能な範囲で冷房を使用した。
- 換気を十分に行った。
- 休憩時間を長めに取ることと水分補給をする旨のアナウンスをした。
- 体調不良の選手は申し出るようにアナウンスした。
- 必要であれば体調不良の選手には体を冷やすために氷嚢や冷却剤を使用した。症状が重い場合には病院に搬送した。
- 審判員、補助員、他大会関係者も休息をとった。

【競技再開が決定された際のチェック項目】

- 水分・塩分補給を試合中の選手はセット間やタイムアウト時、試合中でない選手は喉が渴いたと感じる前に行うようアナウンスを行った。
- 体育館内の気温や湿度が上昇しないよう、空き台での練習は禁止するという旨のアナウンスを再度行った。
- 競技台周辺の人口密度を下げるため応援する人は 5 名までとするようアナウンスを行った。
- 競技時間を最大限短くするために、試合のセット間は 1 分以内を厳守するようアナウンスを行った。
- 競技を行う台と競技を行わない台を交互に設けた。
- WBGT 計が 28℃を下回るまで、上記5つの【競技再開が決定された際のチェック項目】を満たし続けた。

《中止する場合(その日一日の競技が中断される)》

(1) 中断した試合の取り扱い

団体戦は日程上可能ならば中断した試合を、中断した箇所から翌日に再開する。個人戦は、他種目の運営に大きな影響を及ぼす場合、中断した試合を無効とし、その試合はもう行わない。日程上可能ならば中断した試合を中断した箇所から翌日に再開する。

(2) 中断した試合の後に予定している試合(残りの試合)の取り扱い

団体戦が中止になり団体戦・個人戦の両方を決勝戦まで行うことが困難な場合、原則として主将会議を開く。翌日に団体戦の試合を行い、個人戦を中止にするか、団体戦を以降行わないかについて決をとる。個人戦が中止になった場合、他種目の運営に大きな影響があるときはその種目について以降の試合を行わない。

《 中断後、再開する場合 》

(1) 中断した試合の取り扱い

再開する場合互いのセット数はそのまま引き続き試合をする。

(2) 中断した試合の後に予定している試合(残りの試合)の取り扱い

再開した場合通常通り行う。

★中止となった場合の東医体総合得点の配分について

予選リーグ戦の段階で中止になった時は参加したチームに均等になるよう点数を分配する。

決勝トーナメントの段階で中止になった時は、中止時に進行が最も遅かった試合が何回戦(仮に N 回戦とする)だったかによって点数の配分を決める。N 回戦に進出したチームに均等になるよう点数を分配する。

但し試合日程がベスト 4 を決定し、そこで中止した場合(準決勝で中止した場合)、5 位から 8 位に与える得点を与え、残りのポイントをベスト 4 で均等に配分する。決勝戦、3 位決定戦に関しても同様の対応を行う。

団体戦参加校数が去年と同様、男子 36、女子 32 となった場合、以下のように割り振る。

パターン 1	1 位	2 位	3 位	4 位	5～8 位	計
男子	12	8	6	5	1	35
女子	10	7	5	4	1	30

参加校数が男子 30～34、女子 35 以上となった場合、以下のように割り振る。

パターン 2	1 位	2 位	3 位	4 位	5～8 位	計
男子	10	7	5	4	1	30
女子	12	8	6	5	1	35

参加校数が男子 25～29、女子 25～29 となった場合、以下のように割り振る。

パターン 3	1 位	2 位	3 位	4 位	5～8 位	計
男子	8	6	4	3	1	25
女子	8	6	4	3	1	25

バレーボール競技

中断のタイミング:

WBGT 計が 31℃を超えた時点での競技中のセットが終わった際。ただし、体調に異常を感じた者が出た場合は、その時点でのラリーが終わった際。

【WBGT 計が 31℃を超えた際のチェック項目】

- 冷房を使用した。
- 換気を行った。
- アナウンスをして熱中症への注意喚起を促した。
- こまめに休憩をとることと、水分補給を行うように注意喚起を行った。
- 体を冷やす行為を行った(氷嚢で頭部を冷やすなど)。
- 応援者を涼しい場所へ移動させた。
- 必要に応じて審判員、補助員、他大会関係者の疲労を防ぐ対策を行う(十分な水分摂取、適度な休憩など)。
- 熱中症の症状を呈する人がいないかチェックした。
- 熱中症の症状が 1 つでもある場合、プレーを控えさせ、派遣医師に診てもらった。
- 体調が悪い人は大会運営本部に伝えるよう促すアナウンスをした。

【競技再開が決定された際のチェック項目】

- アナウンスをし、会場内にいる全ての人に熱中症への注意喚起を促した。
- 水分補給・塩分補給を試合中の選手はタイムアウトごと、試合中でない選手は 15 分おきにした。
- 選手のみでなく会場内の全ての人に水分補給、塩分補給をするよう指示した。
- 熱中症にかかった人が新たにいないことを確認した。

※アリーナの使用は9時から 22 時まで可

※バレーボール競技について 1 日目～3 日目は各リーグのリーグ戦であり、4～5 日目はトーナメント戦である。

《中止する場合(その日一日の競技が中断される)》

(1) 中断した試合の取り扱い

後日に開催し初めから試合をやり直す。

- ・1 日目～4 日目に関して大会の中止が決定した場合、後日に中断した試合を行う。この時、試合は一番初めからやり直す。
- ・5 日目に中止が決定した場合は、その日の記録を破棄し、その時までのセット率(決まらなければ得失点率)にて順位を決定する。

(2) 中断した試合の後に予定している試合(残りの試合)の取り扱い

残りの試合時間に変更なしで再開する。

・1日目～4日目に関して大会の中止が決定した場合、後日に試合を開催する。

1日目～2日目の中断は3日目に試合を移すことで、対応可能。

3日目の中断の場合は、トーナメントの4日目に移ってしまうので、試合間を長く開けることでリーグ戦とトーナメント戦が連続にならないように対応する。4日目が中止になった場合も同様に行う。

・5日目の場合は、残りの試合を破棄する。それまでの総セット率(決まらなければ得失点率)にて最終順位を算出する。

5日目が中止になった場合、予備日がないためその時までに出そろう(予定はベスト4)各校のセット率(決まらなければ得点率)にて決定する。

《 中断後、再開する場合 》

(1) 中断した試合の取り扱い

中断後、試合を再開する場合は続きから(中断時の得点から)行い最大30分のアップを設けその後試合を再開する。ただし、中断が連続で4時間を超えた場合はその試合を無効とし、試合を初めからやり直すこととする。

この時中断時間およびアップ時間分だけ試合の進行が遅れるが、会場としての体育館は全日で確保しているため9時～22時まで使用(ゲーム予定は10時～17時)出来るので、進行の遅れは問題とならない。そのため、試合の短縮などは行わない。

(2) 中断した後に予定している試合(残りの試合)の取り扱い

残りの試合時間に変更なしで再開する。

★中止となった場合の東医体総合得点の配分について

男子 1位:14点 2位:9点 3位:5点 4位:3点 5～8位:1点(参加校数35～39の場合)

男子 1位:11点 2位:7点 3位:5点 4位:3点 5～8位:1点(参加校数30～34の場合)

女子 1位:11点 2位:7点 3位:5点 4位:3点 5～8位:1点(参加校数30～34の場合)

女子 1位:8点 2位:6点 3位:4点 4位:3点 5～8位:1点(参加校数25～29の場合)

男子

・ベスト8チームが決定していない場合

参加校に点数を均等に配分する。

・ベスト8まで決定している場合

ベスト8のチームに点数を均等に配分する。

・ベスト4が決定している場合

ベスト4のチームに7.75点ずつ配分し、5～8位には1点ずつ配分する(参加校数35～39の場合)。

ベスト4のチームに6.5点ずつ配分し、5～8位には1点ずつ配分する(参加校数30～34の場合)。

・準決勝の結果がわかっている場合

決勝進出大学に11.5点ずつ、3位決定戦進出大学に4点ずつ、5～8位には1点ずつ配分する(参加校数35～39の場合)。

決勝進出大学に9点ずつ、3位決定戦進出大学に4点ずつ、5～8位には1点ずつ配分する(参加校数30～34の場合)。

・決勝戦以外終わっている場合

決勝進出大学に11.5点ずつ、3位に5点、4位に3点、5～8位には1点ずつ配分する(参加校数35～39の場合)。

決勝進出大学に9点ずつ、3位に5点、4位に3点、5～8位には1点ずつ配分する(参加校数30～34の場合)。

女子

・ベスト8チームが決定していない場合

参加校に点数を均等に配分する。

・ベスト8まで決定している場合

ベスト8のチームに点数を均等に配分する。

・ベスト4が決定している場合

ベスト4のチームに6.5点ずつ配分し、5～8位には1点ずつ配分する(参加校数30～34の場合)。

ベスト4のチームに5.25点ずつ配分し、5～8位には1点ずつ配分する(参加校数25～29の場合)。

・準決勝の結果がわかっている場合

決勝進出大学に9点ずつ、3位決定戦進出大学に4点ずつ、5～8位には1点ずつ配分する(参加校数30～34の場合)。

決勝進出大学に7点ずつ、3位決定戦進出大学に3.5点ずつ、5～8位には1点ずつ配分する(参加校数25～29の場合)。

・決勝戦以外終わっている場合

決勝進出大学に9点ずつ、3位に5点、4位に3点、5～8位には1点ずつ配分する(参加校数30～34の場合)。

決勝進出大学に7点ずつ、3位に4点、4位に3点、5～8位には1点ずつ配分する(参加校数25～29の場合)。

バドミントン競技

中断のタイミング:

WBGT 計が 31℃を超えた時点で行っている試合終了後、コールを一時中断。冷房、換気時間とする。必ず中断の対応を行うこと。

【WBGT 計が 31℃を超えた際のチェック項目】

- 冷房を使用した。
 - 換気を行った。
 - 選手や応援者に対してアナウンスおよび主将ラインなどを利用して各大学に注意喚起を促した。(会場全体に水分補給を促す、体調の優れない人は大会本部に言うようにする、等)
- ※WBGT 計が 28℃を超えた際および一時間毎にも行います。
- 体を冷やす行為を行った。例) 本部に氷嚢があることを伝え、氷嚢で首を冷やした。
 - 体調の悪い人を涼しい場所(控室、冷房がついている場所)に移動させた。
 - 対応について派遣医師に助言を求めた。

【競技再開が決定された際のチェック項目】

- 今後の冷房の使用タイミングを再度確認した。
- 選手や応援者に対してアナウンスをした。
- 体を冷やす行為と水分補給を行うようアナウンスおよび主将ラインにて促した。
- 試合時間の短縮が可能であるか検討した。
- 体調が悪い人が出たときの対応(連絡経路など)を運営側で再度確認した。
- 体調の悪い人を涼しい場所(控室、冷房がついている場所)に移動させた。
- 今後の試合のプログラムを確認し、今後の試合運びを全員で確認する。

《中止する場合(その日一日の競技が中断される)》

(1) 中断した試合の取り扱い

中断のタイミングが各コート試合の終了した時であるため関係なし

(2) 中断した試合の後に予定している試合(残りの試合)の取り扱い

残りの試合を翌日に延期して後日開催する。

翌日からの対応は上記と同じ。

《中断後、再開する場合》

(1) 中断した試合の取り扱い

中断のタイミングが各コート試合の終了した時であるため関係なし

(2) 中断した試合の後に予定している試合(残りの試合)の取り扱い

大会中に全試合が行えると判断した場合、変更せず行う。

全試合行うことが難しいと判断した場合、公平性を考慮しながら 1 ゲームの点数を少なくする。(21 点ゲーム→15 点ゲーム、15 点ゲーム→11 点ゲーム)

全試合行うことが不可能と判断した場合、タイムテーブルを変更し、団体戦を優先的に行い、次にシングルス試合を優先的に入れる。

★中止となった場合の東医体総合得点の配分について

バドミントン競技は団体戦のみ東医体総合得点に関わるので団体戦を先に行い、期間中に必ず完了するようにする。

・ベスト 8 が決定できなかった場合

各大学に均等に得点を配分する。

・ベスト 8 まで決定している場合

男子…35 点中、上位 8 校に 4. 375 点

女子…35 点中、上位 8 校に 4. 375 点

・ベスト 4 まで決定している場合

男子…35 点中、上位 4 校に 5. 75 点、残りの 4 校に 3 点

女子…35 点中、上位 4 校に 5. 75 点、残りの 4 校に 3 点

・決勝のみ終わらなかった場合

男子…35 点中、決勝進出大学に 8. 5 点、3・4 位には 5 点、5～8 位には 2 点

女子…35 点中、決勝進出大学に 8. 5 点、3・4 位には 5 点、5～8 位には 2 点

サッカー競技

中断のタイミング:

- WBGT 計で 31℃以上になった後、初めてボールがフィールドから出たとき。なかなかボールが出ないときは強制的に中止する。
- 悪天候(豪雨、暴風、落雷)により現場責任者や審判、各校の代表者の協議によって試合続行が困難であると判断されたとき。
- WBGT 計の値に関わらず、派遣医師の助言のもと競技実行委員長が競技続行に支障があると判断したとき。
- アナウンスによって行われる。

【WBGT 計が 31℃になった際のチェック項目】

- 前後半の 17 分に設けられる給水タイムやハーフタイム時および中断時に氷で体を冷やした。
 - 応援者や観客などにアナウンスし、水分補給などを促した。
 - 応援者や観客を直射日光の当たらない場所へ移動することを促した。
 - 体調が悪い人がいたら申し出てもらった。
 - 水分補給の時間を設けるなど審判員への配慮を行った。
- ※WBGT 計が 28℃以上になった時も上記のチェックを行う。
また 31℃以上になった場合、下回るまで待つことはしてはならない。

【競技再開が決定された際のチェック項目】

- 氷嚢で体を冷やした。
- プレー中の選手が水分補給を行った。
- 体調不良者がいないか確認した。

【悪天候により競技の続行が困難だと判断された際のチェック項目】

- 怪我人、具合が悪い人は申し出るようにアナウンスした。
- 暴風によって道具が飛ばされないように整理した。
- 豪雨や落雷時には速やかに屋根付きの建物内に避難するよう指示した。
- 審判、補助員などの大会関係者に対し速やかに安全な場所へ避難するようアナウンスをした。
- 特に選手に関しては体温を低下させないようタオルで身体を拭く、アンダーシャツの着替えをするなどを行うよう指示した。

【競技再開が決定された際のチェック項目(悪天候時)】

- 雨雲や暴風、雷雲が通り過ぎていることをインターネットや目視で確認した。
- 随時応援者や観客などに対して身の安全を守るようにアナウンスを行った。

《中止する場合(その日一日の競技が中断される)》

(1) 中断した試合の取り扱い

翌日に延期し、中断した試合を中断時の状況から始める。

試合の進行状況によっては試合時間の短縮を行う。

*最終日が中止となった場合

①前半が終了している場合、その時点で勝っているチームを勝利とする。

引き分けの場合には、その試合は引き分けを最終試合結果とする。

(試合を行った2校は同順位とする。)

②前半が終了していない場合、その試合は破棄し、無効とする。

(2) 中断した試合の後に予定していた試合の取り扱い

残りの試合を翌日に延期して後日開催する。

試合の進行状況によっては試合時間の短縮を行う。

最終日が中止となった場合には、その段階で競技は中止となる。

《中断後、再開する場合》

(1) 中断した試合の取り扱い

中断した試合を中断時の状況から始める。

中断が長引いた場合には試合時間の短縮を考慮する。

(2) 中断した試合の後に予定していた試合の取り扱い

残りの試合を試合時間の変更をせず行う。

中断が長引いた場合には試合時間の短縮を考慮する。

★中止後の東医体総合得点配分について

・ベスト16が決定していない場合

全てのチームに点数を均等に配分する。

・ベスト16が決定している場合

ベスト16のチームに点数を均等に配分する。

・ベスト4が決定している場合

準決勝進出するチームに7.75点ずつ、5位(4チーム)に1点ずつを配分する。

・準決勝戦の結果が分かっている場合

決勝進出するチームに10点ずつ、準決勝敗退したチームに5.5点ずつ、5位に1点ずつを配分する。

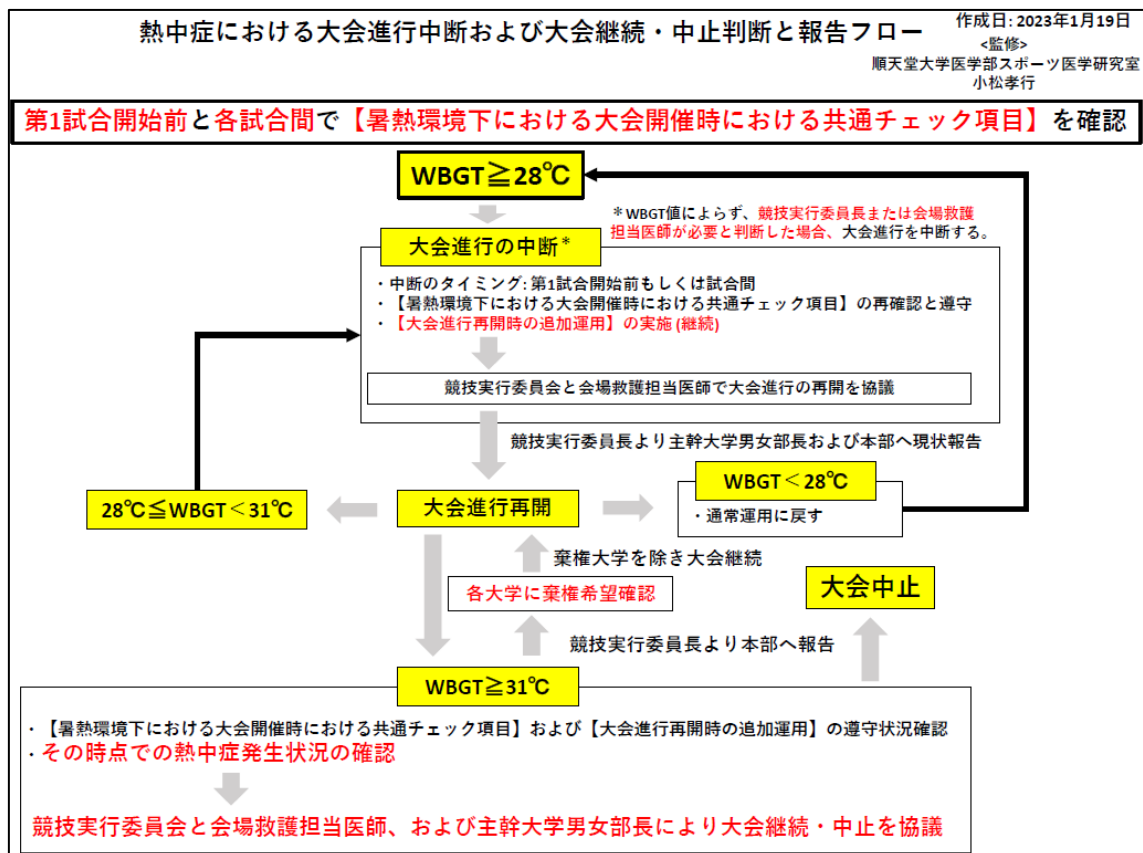
・決勝戦以外終わっている場合

決勝進出するチームに10点ずつ、3位に6点、4位に5点、5位に1点ずつを配分する。

バスケットボール競技

<はじめに>

多因子によって生じる熱中症は WBGT<28℃においても発症し、またWBGTは連続モニタリング下にあるため、単一のWBGT値ではなく経時的な変遷を考慮した対応を要する。一方で、WBGT ≥31℃においても、適切な対策を行うことで競技実施も可能であるため、本競技での暑熱環境下における大会継続・中止の判断は、必要に応じて大会進行を中断しつつ、熱中症発症者数を含めて総合的に行うこととする(下記フローおよび、以後文章参照)。



<大会開催中の熱中症予防の遵守>

大会開催中においては、熱中症対策マニュアルに則った予防を実践し、**第一試合開始前**および**各試合間**に以下のチェック項目に則り熱中症対策の実施状況を逐次確認する。
なお本内容を含み、参加大学に対して**事前講習会**を開催する。

【暑熱環境下における大会開催時における共通チェック項目】

以下の全項目を満たしていることを確認する。

(「熱中症対策マニュアル 3. 予防」参照)

- ① 適切な水分・塩分補給の励行

- ② 競技実施場所の**冷房使用**による適切な温度管理(使用施設の事情により冷房使用が不可の場合には可能な範囲で扇風機などを使用し換気する)
- ③ 競技実施場所および施設屋外における**WBGT のモニタリング(屋外の WBGT \geq 31 $^{\circ}$ Cの場合、屋外アップは 10 分以内とする。)**
- ④ 会場内アナウンス(熱中症予防の徹底、体調不良時における会場救護担当医師や競技実行委員への声かけに関して)
- ⑤ **熱中症を疑う症状を有する選手・チームスタッフ・審判・運営スタッフ・観客の有無の確認**(疑わしい症状を呈している場合には速やかに会場担当医師に診察を依頼)
- ⑥ 終日職務のある審判・運営スタッフの休憩場所と時間の確保、および水分・塩分補給のサポート

<大会進行中断のタイミング>

以下に該当する場合には、大会進行を中断する。なお大会進行の**中断は、第一試合開始前もしくは試合間**に行う

- ① 競技実施場所における WBGT \geq 28 $^{\circ}$ Cの場合(WBGT \geq 31 $^{\circ}$ Cとなる見込みがあるため)
- ② 競技実施場所における WBGT によらず、**競技実行委員長または会場救護担当医師により大会継続が困難であると判断した場合**
(競技実施場所以外で熱中症発生事案などがあつた場合含む)

注: 熱中症以外での事案発生により大会進行中断を要す場合あり

<大会進行中断時の対応>

大会進行中断時は 28 $^{\circ}$ C \leq WBGT<31 $^{\circ}$ Cであるため、【暑熱環境下における大会開催時における共通チェック項目】の再確認に加えて、以下の**追加運用**を講じ、**競技実行委員会と会場救護担当医師で協議した上で大会進行を再開**する。

なおその際、主幹大学男女部長および本部へ現状報告する。

【大会進行再開時の追加運用】

- ① 水分補給などを目的とした**オフィシャルタイムアウト(各 Q において 5 分経過し、かつボールデッド停止時)の設定**
- ② 各大学への**WBGT \geq 31 $^{\circ}$ C到達時における大会中止の可能性に関する周知**

再開後の試合中に WBGT<28 $^{\circ}$ Cとなれば通常運用に戻し、28 $^{\circ}$ C \leq WBGT<31 $^{\circ}$ Cであれば、【大会進行再開時の追加運用】を継続した上で、都度【暑熱環境下における大会開催時における共通チェック項目】を確認する。

なお WBGT \geq 31 $^{\circ}$ Cとなった場合の大会継続・中止に関しては、競技実行委員会と会場救護担当医師に加えて、主幹大学男女部長とが協議し、その時点での熱中症発症者数などを含め総合的に判断する。なお、大会中止の場合には競技実行委員長より本部へ報告する。

また、大会継続の場合には、各大学に棄権の希望に関して確認し棄権大学を除き大会進行を再開する。

【大会中止時の試合の取り扱いについて】

大会中止時点で、同日に実施予定であった試合は(大会進行中断・再開を繰り返した場合に同日に実施予定であった試合の実施が困難となった場合含む)、原則翌日以降で執り行う。その際、試合時間が短縮される可能性、あるいは大会前に決定していた競技日程全体が変更となる可能性があることを該当大学に周知する。なお、大会最終日までに全行程を修了できなかった場合には、以下の基準に従い東医体総合得点を配分する。

★大会中止となった場合の東医体総合得点の配分について

男子

(i)参加校数 35～39 の場合

1位:14点 2位:9点 3位:5点 4位:3点 5～8位:1点

・ベスト8チームが決定していない場合

参加校に点数を均等に配分する。

・ベスト8まで決定している場合

ベスト8のチームに点数を均等に配分する。

・ベスト4が決定している場合

ベスト4のチームに7.75点ずつ配分し、5～8位には1点ずつ配分する。

・準決勝の結果がわかっている場合

決勝進出大学に11.5点ずつ、3位決定戦進出大学に4点ずつ、5～8位には1点ずつ配分する。

・決勝戦以外終わっている場合

決勝進出大学に11.5点ずつ、3位に6点、4位に2点、5～8位には1点ずつ配分する。

(ii)参加校数 30～34 の場合

1位:11点 2位:7点 3位:5点 4位:3点 5～8位:1点

・ベスト8チームが決定していない場合

参加校に点数を均等に配分する。

・ベスト8まで決定している場合

ベスト8のチームに点数を均等に配分する。

・ベスト4が決定している場合:

ベスト4のチームに6.5点ずつ配分し、5～8位には1点ずつ配分する。

・準決勝の結果がわかっている場合

決勝進出大学に8.5点ずつ、3位決定戦進出大学に4.5点ずつ、5～8位には1点ずつ配分する。

・決勝戦以外終わっている場合

決勝進出大学に9点ずつ、3位に5点、4位に3点、5～8位には1点ずつ配分する。

女子

(i)参加校数30～34の場合

1位:11点 2位:7点 3位:5点 4位:3点 5～8位:1点

・ベスト8チームが決定していない場合

参加校に点数を均等に配分する。

・ベスト8まで決定している場合

ベスト8のチームに点数を均等に配分する。

・ベスト4が決定している場合:

ベスト4のチームに6.5点ずつ配分し、5～8位には1点ずつ配分する。

・準決勝の結果がわかっている場合

決勝進出大学に8.5点ずつ、3位決定戦進出大学に4.5点ずつ、5～8位には1点ずつ配分する。

・決勝戦以外終わっている場合

決勝進出大学に9点ずつ、3位に5点、4位に3点、5～8位には1点ずつ配分する。

(ii)参加校数25～29の場合

1位:8点 2位:6点 3位:4点 4位:3点 5～8位:1点

・ベスト8チームが決定していない場合

参加校に点数を均等に配分する。

・ベスト8まで決定している場合

ベスト8のチームに点数を均等に配分する。

・ベスト4が決定している場合:

ベスト4のチームに5.25点ずつ配分し、5～8位には1点ずつ配分する。

・準決勝の結果がわかっている場合

決勝進出大学に7点ずつ、3位決定戦進出大学に3.5点ずつ、5～8位には1点ずつ配分する。

・決勝戦以外終わっている場合

決勝進出大学に7点ずつ、3位に4点、4位に3点、5～8位には1点ずつ配分する。

作成日: 2023年1月19日
監修: 順天堂大学医学部 スポーツ医学研究室
小松孝行

柔道競技

中断のタイミング:

WBGT 計が 31℃以上となった際、アナウンスにより、各試合場にて当時点で行われている試合が終わり次第中断する。また、競技続行に支障があると判断した場合は、WBGT 計の値に関わらず競技を一度中断し、熱中症発症者が発生した時点で中断を考える。

競技中に強い地震が発生した場合、アナウンスにより、各試合場にて行われている試合を試合途中に関わらず一時中断する。なお、柔道競技は室内競技であるため、悪天候の際であっても中断は行わない。

【WBGT 計が 31℃以上となった際のチェック項目】

- 換気を行った。
- 体を冷やす行為を行うようにアナウンスをした。
- 試合を行わない場合は柔道着の上着を脱ぐように指示し、涼しい格好にさせた。
- 応援者を涼しい所へ移動させた。
- 会場にいる人全員に水分補給を指示した。
- 会場全体に熱中症になりやすい状況であることをアナウンスし、熱中症への自覚を持たせた。
- 試合を行わない出場者、マネージャーの方に対して極力マスクの着用の呼びかけを行う。

【競技再開が決定された際のチェック項目】

- 水分補給・塩分補給を試合終了前後に行うようにする。
 - アナウンスをした。例) 体調が悪い人は無理をせず申し出て下さい。
- この際、選手以外の大会関係者も体調が悪い場合は申し出るように強調して呼びかけを行う。選手以外も、水分摂取を心掛けるように呼びかけを行う。また、他の部員でも様子がおかしいと思われた場合には、本人への確認や運営側に伝えることを呼びかける。
- 試合を行わない出場者、マネージャーの方に対して極力マスクの着用の呼びかけを行う。
 - 試合時間の短縮を考慮した。
 - 引き分けの場合はゴールデンスコアでなく判定で試合結果を決めることを考慮した。
 - 試合中断中、再開前に WBGT 計により WBGT を測定したことを確認した。
 - WBGT28℃を下回り続けるまで、上記のチェック項目を満たしているかどうか確認したか。

【中止する場合(その日一日の競技が中断される)】

(1) 中断した試合の取り扱い

中断した試合で結果が確定している場合(団体戦ですでに 3 勝している等)はそれに準ずる。それ以外は無効とする。

(2) 中断した試合の後に予定している試合(残りの試合)の取り扱い

すべて中止とし、行わない。

(3)発熱者が出た場合

発熱者が出た場合、感染のリスクを考慮した上でその後の試合は全て中止とする。また、来場した人は宿泊ホテル等必要に応じて各方面にも連絡を入れた上で判断を仰ぐ。そして早急に PCR 検査を受けること。

【再開後の試合の取り扱い】

(1) 中断した試合の取り扱い

中断した試合で、結果がいまだ確定していないときには中断時の状況から始める。(試合時間の短縮を考慮する)結果が確定している試合は残りの試合は行わない。

(2) 中断した試合の後に予定している試合(残りの試合)の取り扱い

残りの試合の試合時間を短縮して行う。

★中止となった場合の東医体総合得点配分について

柔道競技は団体戦の結果のみに得点が配分される。

【例.出場校が 24 校以下の場合】

- ・ベスト 8 チームが決定していない場合
参加校に点数を均等に配分する。
- ・ベスト 8 まで決定している場合
ベスト 8 の 8 校に 2.5 点を均等に配分する。
- ・ベスト 4 が決定している場合
準決勝進出校に 4 点ずつ、5～8 位に 1 点ずつを配分する。
- ・決勝戦が終了しなかった場合
決勝進出大学に 6 点ずつ、3 位に 2 点ずつ、4 位に 1 点ずつを配分する。

【例.出場校が 25～29 校の場合】

- ・ベスト 8 チームが決定していない場合
参加校に点数を均等に配分する。
- ・ベスト 8 まで決定している場合
ベスト 8 の 8 校に 3.125 点を均等に配分する。
- ・ベスト 4 が決定している場合
準決勝進出校に 5.25 点ずつ、5～8 位に 1 点ずつを配分する。
- ・決勝戦が終了しなかった場合
決勝進出大学に 7 点ずつ、3 位に 3 点ずつ、4 位に 1.25 点ずつを配分する。

【例.出場校が 30～34 校の場合】

- ベスト 8 チームが決定していない場合
参加校に点数を均等に配分する。
- ベスト 8 まで決定している場合
ベスト 8 の 8 校に 3.75 点を均等に配分する。
- ベスト 4 が決定している場合
準決勝進出校に 5.5 点ずつ、5～8 位に 2 点ずつを配分する。
- 決勝戦が終了しなかった場合
決勝進出大学に 8 点ずつ、3 位に 4 点ずつ、4 位に 1.5 点ずつを配分する。

剣道競技

中断のタイミング：

WBGT 計が 31℃以上となった時、アナウンスにより、進行中の試合が終わり次第、必ず一度中断する。中断は試合中には行わない。ただし、個人戦や団体代表戦などで時間無制限の試合中だった場合、30分を過ぎる前に休憩を取り再開後に再び行うこととする。

【WBGT 計が 31℃以上となった際のチェック項目】

- 冷房を使用し気温を下げた。
- 室内の換気を行った。
- アナウンスをし、会場内にいる全ての人に熱中症への注意を喚起した。
- 試合終了後の選手のみでなく会場内の全ての人へ水分補給、塩分補給をするよう指示した。
- 試合終了後に面を取るよう指示した。
- 暑いと感じる場合には我慢をせず防具を外すよう指示した。
- 氷嚢などを用いて頭頸部の冷却を呼びかけた。
- 審判員、補助員も休憩を設けた。
- 審判員、補助員に水分補給、必要に応じて冷却を行った。
- 体調が悪い人は大会運営本部に伝えるよう促すアナウンスをした。

【競技再開が決定された際のチェック項目】

- アナウンスをし、会場内にいる全ての人に熱中症予防の注意喚起を促した。
- 試合終了毎に水分補給、塩分補給をするようアナウンスした。
- 試合終了毎に面を取るようアナウンスした。
- 試合終了毎に氷嚢などを用いて頭頸部等の冷却を行うようアナウンスした。
- 審判員、補助員に水分補給、必要に応じて冷却をアナウンスした。
- 試合間の休憩を十分取るよう選手に指示した。
- 連続して試合を行う選手の場合、休憩を十分取らせてから試合を始めるよう審判に指示した。
- 熱中症にかかった人が新たにいないことを確認した。
- 体調が悪くなったときは大会運営本部に伝えるよう促すアナウンスをした。
- 決められた場所、時間以外での練習を禁止するという連絡を再度行った。
- 派遣医師の了承を得た。

(WBGT 計が 28℃を下回るまでこれらのチェック項目は満たされ続けなければならない。)

《中止する場合(その日一日の競技が中断される)》

(1) 中断した試合の取り扱い

個人戦：中断のタイミングに従い、中断は試合中に行わない。

団体戦：団体戦の勝敗が決定している場合は、その勝敗を記録する。勝敗が決定していない場合は2日目に次の試合から再開する。

(2) 中断した試合の後に予定している試合(残りの試合)の取り扱い

個人戦：競技を終了する。

団体戦：ベスト4に達していない場合は、2日目の個人戦を中止し、2日目に団体戦を中断した次の試合から続行する。ベスト4に達している場合には、2日目に次の試合から続行し、決勝が終了した時点で個人戦を行う。(ただし、予選2分、決勝トーナメント3分とする。)

《中断後、再開する場合》

(1) 中断した試合の取扱い

個人戦：中断のタイミングに従い、中断は試合中に行わない。再開の際は、次の試合から始める。

団体戦：中断のタイミングに従い、中断は試合中に行わない。再開の際は、次の試合から始める。

(ただし、団体戦の勝敗が決定している場合は、その時点で勝敗を決め、残りの試合は行わず、次の団体の試合から始めることとする。)

(2) 中断した試合の後に予定している試合(残りの試合)の取り扱い

個人戦：残りの試合の試合時間を変更せず行う。

団体戦：残りの試合の試合時間を変更せず行う。

(ただし、2日目の個人戦の場合に限り、18:00を超えることが見込まれる場合、予選2分、決勝トーナメント3分とする。団体戦の場合に18:00を超えることが見込まれる場合には、2日目に持ち越す。)

★中止となった場合の東医体総合得点の配分について

・ベスト8が決定していない場合

全てのチームに点数を均等に配分する。

・ベスト8が決定している場合

ベスト8のチームに点数を均等に配分する。

・ベスト4が決定している場合

男子…ベスト4のチームに4点ずつ、5～8位のチームに1点ずつを配分する。

女子…ベスト4のチームに2.75点ずつ、5～8位のチームに1点ずつを配分する。

・決勝戦以外終わっている場合

男子…決勝進出大学に6点ずつ、3・4位のチームに2点ずつ、5～8位のチームに1点ずつを配分する。

女子…決勝進出大学に3.5点ずつ、3・4位のチームに2点ずつ、5～8位のチームに1点ずつを配分する。

弓道競技

中断のタイミング:WBGT 計が31℃になった時点で行われていた立が終了した時とする。
場内アナウンスによって行われる。派遣医師の助言のもと、競技実行委員長が競技の再開・中止を決定する。

【WBGT 計が 31℃以上となった際のチェック項目】

- 控室の冷房を使用した。
- 選手、観客の中に熱中症、および気分のすぐれない者がいないことを確認した。
- 会場全体にアナウンスを行い、熱中症への注意を喚起した。
- 水分補給をこまめに行うように指示をした。

【競技再開が決定された際のチェック項目】

- 新規に熱中症患者が発生していないことを確認した。
- 競技の合間に水分補給と控室の利用をアナウンスした。
- 応援時以外は出来るだけ控室で待機するよう各校の主将に連絡した。
- 応援時等で外に出る際にも帽子を使用する、長時間日に当たることを避けるよう指示をした。
- 審査員長・審査員・他主管業務を行うものに対して控室の使用を推奨した。
- 会場全体にアナウンスを行い、熱中症への注意を再度喚起した。
- 水分補給をこまめに行うように指示をした。
- 体調が悪くなった、または悪くなりそうな場合に、常駐医の元を訪れるようにアナウンスした。

試合が中断・中止によって、予定通り進まなくなった場合、個人戦の試合を優先させて終了させるように日程を変更する。

《中止する場合(その日一日の競技が中断される)》

(1) 中断した試合の取り扱い

1 立 10 分以内には終わるため、立が終わり次第の中断となる。よって中断のタイミングにより、途中で終了する立はない。

(2) 中断した後の試合の取り扱い

個人戦(競技予定:1～3 日目午前)

- ① その日に予定していた競技は中断となり、翌日行える場合は、翌日から競技を再開する
- ② 翌日以降行えない場合は、東医体弓道競技を中止し、順位は決定しない。

団体戦(競技予定:3 日目の 11 時頃～4 日目)

- ① 個人戦が終了していなかった場合、個人戦を優先して行い、時間があれば団体戦を行う。
- ② 3 日目に中断となった場合、4 日目に続きの試合を行う。

- ③ 4 日目に中断となった場合、その後の試合をすべて中止とし、その時点で終了している全体の立の総的中数によって順位を決定する。
- ④ 3 日目以前の中止によって4 日目に1 立しか終了しないと予測される場合、もしくは4 日目に競技が中止され全体の立数が1 立しか終了していない場合、順位は決定しない。
(総的中数が同じ大学が多数出る恐れがあり、順位を決定しにくいため。)

試合続行不可となり、決中による順位決定ができない場合は、対象大学の1 立目の総的中数がより高い方を優位にする。また、1立目が同的中数である場合は2立目の総的中数がより高い方を優位にする。2立目以降も同的中数であり、順位が決定できない場合は同順位とする。
(この場合、トロフィー等の褒賞品は大会終了以降のお渡しとなります。ご了承下さい。)

3 日目以前に中断した場合、中断した日に主将会議を緊急に開き各大学と話し合い、場合によっては全体の立数を減らして試合を続行する。ただし、4 日目の 20:30 までに閉会式を含め大会を終了出来ると目途が付く立数とする。

《中断後、再開する場合》

(1) 中断した場合の取り扱い

中断のタイミングにより、途中で終了する立はない。そのまま次の試合から続行する。

(2) 中断した試合の後に予定している試合(残りの試合)の取り扱い

個人(競技予定:1~3 日目午前)

- ① 再開後、個人戦の続きを行う。
- ② 個人戦が終了した後、個人戦決中を行い、順位を決定する。

団体戦(競技予定:3 日目の11 時頃~4 日目)

- ① 3 日目12 時まで中断が行われ、競技の進行が遅れている場合
3 日目12 時からの団体戦開始が困難であると事前に分かっている場合には、2 日目終了時または3 日目12 時に主将会議で団体戦の全体の立数を決定する。
- ② 3 日目12 時以降または4 日目に中断が行われた場合

中断時の主将会議において、立数の変更等を協議する。

- ③ 個人戦の順位が全て決定し、団体戦が5 立目まで終了した場合のみ、敢闘賞(団体戦)を決定する。

個人戦、団体戦共に中断があった場合、その日以降の日程を変更する。期間中に終わる目処が立つよう試合終了時刻を遅らせる。

★中止となった場合の東医体総合得点の配分について

弓道競技は団体の順位を基に得点配分を振り分ける。

・1 順目が終了しなかった場合

全ての大学に点数を均等に配分する。

・1 順目のみで団体戦が終了となった場合、

もしくは2 順目の途中までで中断・中止した場合

全ての大学に点数を均等に配分する。

・2 順目までで団体戦が終了となった場合、

もしくは3 順目の途中までで中断・中止した場合

2 順目までの総的中数に応じて順位を決定し、得点を配分する。

・3 順目が終了した場合

中止になった段階で、すべての大学が引き終えた全体の立順までの総的中数で順位付けを行う。

(例:4 順目の立の 6 チーム目が引き終わった段階で中止となり、試合が終了となった場合、得点は各チーム3 順目までの総的中数で決定する。)

また、同点の場合には同じ点数が配分されるようにする。

＜地震についての対策＞

第 66 回東医体弓道競技では、強い地震が発生した際下記のように対処させていただきます。

●競技中に強い地震が発生した場合、進行がベルを 3 回鳴らし、マイクで行射の中断を促します。ベルが 3 回鳴った場合、取懸けを行って打起した後であっても、行射を中断してください。ただし各自の判断で、打起後の射の中断が困難または危険であると判断した場合は、無理に射を中断する必要はありません。その後、的中確認・矢取りを行うとともに、選手には一旦退場していただきます。地震が収まり、安全が確認できましたら、選手に必要な本数矢を持って再び入場していただきます。

＜悪天候の際の動き＞

第 66 回東医体弓道競技では悪天候の際は以下のように対応させていただきます。

- 基本的に雨天決行、雷が鳴っていても同様とする。
- 気象庁の発表で明治神宮弓道場付近の風速 10 m/s 以上である場合、即時競技を中断する。風速 7～10 m/s である場合、審査員と相談し、競技続行可能であるかを判断する。風速 7m/s 以下である場合は競技を行う。

空手道競技

中断のタイミング:形競技…競技中の選手の形が終了したとき。

組手競技…競技中の選手の組手試合が終了したとき。

【WBGT 計が 31℃以上となった際のチェック項目】

- 冷房を使用し気温を下げた。
- 室内の換気を行った。
- 会場内にいる全ての人に熱中症への注意を喚起し水分補給をするようアナウンスをした。
- 体調が悪い人は申し出るようにアナウンスした。
- 体を冷やす行為をとるようアナウンスした。例)氷嚢で頭を冷やす。
- 試合をしていない選手には、道着の上を脱ぐなど涼しい格好をしてもらった
- 涼しい所へ移動するよう促す。
- 審判員・補助員にあらかじめドリンクを提供した。

【競技再開が決定された際のチェック項目】

- 体調が悪い人は申し出るようにアナウンスした。
- 熱中症に新たにかかった人がいないかを確認した。
- 試合終了毎に水分、塩分補給をするように指示した。
- 審判員・補助員に必要な応じて各試合間に休憩を設けるように指示した。

《中止する場合(その日一日の競技が中断される)》

(1) 中断した試合の取り扱い

中止した試合は、中断した試合の記録を無効にする。

(2) 中断した試合の後に予定している試合(残りの試合)の取り扱い

1 日目が中止となった場合、状況によって 2 日目に競技の続行が可能ならば、2 日目の予定や試合内容等を変更して、中断したところから再開する。

競技の続行が不可能な場合や 2 日目も中止となる場合は、以降の試合を中止し競技自体を取りやめる。

2 日目のみが中止となった場合は、中止となった種目に応じて得点を等分する。(★中止となった場合の東医体総合得点の配分について参照)

《中断、再開する場合》

(1) 中断した試合の取り扱い

試合時間の変更なく、中断した箇所から再開する。

(2) 中断した試合の後に予定している試合(残りの試合)の取り扱い

試合時間は状況によって変更する可能性がある。

中断した試合の続きから再開する。

ただし、1 日目で中断、再開となり、1 日目に予定されていた種目がその日中に全て終了しきれない場合は、2 日目の予定や試合内容を変更しての再開となる場合がある。

2 日目で中断、再開となり種目を時間内に全て終了しきれない場合は、残っている種目の試合内容等を変更して再開となる場合がある。

★中止となった場合の東医体総合得点の配分について

空手道競技に与えられた得点は参加校が 15～19 校の場合は 15 点、20～24 校の場合は 20 点である。

形競技は準決勝まで、組手競技は準々決勝まで試合が済んでいない場合は参加校で得点を等分する。

準々決勝まで達している場合は種目の得点を準々決勝出場校で等分する。

準決勝まで達している場合は準決勝出場校で得点を等分する。

決勝戦の途中で中止が決定した場合、

決勝戦進出の 2 校に 1 位と 2 位の得点の合計を等配分することとする。

水泳競技

中断のタイミング:WBGT 計で 31℃が計測されたときに中断します。

【WBGT 計が 31℃を超えた際のチェック項目】

- 水分・塩分の補給を選手だけでなくマネージャー、応援者等も行うように指示した。
- 濡れタオルなどを首元に当てるといった体を冷やす行為を行うよう指示した。
- 審判員などの大会運営陣営にも各種目間に水分・塩分補給を行うよう指示した。
- 具合の悪い人は無理をせずに申し出るようにアナウンスをした。
- いつ中断するか、また中断の理由をアナウンスした。

【競技再開が決定された際のチェック項目】

- 水分・塩分の補給を選手だけでなくマネージャー、応援者等も適宜行うように指示した。
- 濡れタオルなどを首元に当てるといった体を冷やす行為を行うよう指示した。
- 中断時間の長さに応じて予定していた試合の取り扱いの変更についてアナウンスした。

《中止する場合(その日一日の競技が中断される)》

- ・1 日目中止…1 日目の競技は終了する。2 日目は 2 日目の予定通り種目を行う。
- ・2 日目中止…競技終了する。

《中断後、再開する場合》

(1) 中断した試合の取り扱い

中断するのは種目の終わりである。中断のタイミングは水泳競技の試合形式の特性上、きりのいいところで中断できるので問題ない。

(2) 中断した試合の後に予定していた試合(残りの試合)の取り扱い

中断時間の長さによって対応を変える。

1. 中断時間が長いとき

- ・リレー競技のみ行う。

2. 中断時間が少し長いとき

- ・1 日目:リレー競技+タイム決勝の最終 3 組のみ。予選-決勝を行うものは予選のタイムで順位決定。
- ・2 日目:セレモニーの省略、予選-決勝を行うものは予選のタイムで順位決定。

・両日ともに表彰省略

3. 中断時間が少し短いとき

- ・表彰の省略

4. 中断時間が短いとき

- ・大会運営を急ぐ。休憩時間短縮。(競技は予定通り全て行う)

★中止となった場合の東医体総合得点の配分について

得点配分は行った種目の競技結果をもとにする。

また最終決定は主将会議に一任する。

ヨット競技

中断のタイミング：

WBGT 計が 31℃以上となった時、レース中またはレース準備中の全競技参加者への通達が可能なタイミング。全大学が出艇する前(D 旗掲揚前)であれば放送にて通達を行い、出艇後、海上に出ているタイミングであれば無線機で運営艇に中止を通達し、レース前であればレースの延期、レース中であればショートコースにするなどして 30 分以内のレース終了を目指す。

【WBGT 計が 31℃以上となった際のチェック項目】

- 派遣医師からの助言を得た。
- レース委員長からの助言を得た。
- 競技時間の短縮、レース数の変更について話し合った。
- 陸上本部、各運営艇に状況を連絡した。
- 熱中症に注意するようアナウンスをした。
- 体調が悪い人は申し出るようにアナウンスをした。
- 競技者、運営者、応援者、監督は水分を摂取するようにアナウンスを行った。
- 競技者、運営者、応援者、監督は帽子をかぶるようアナウンスを行った。
- 応援者や監督は風通しの良い服、日傘など直射日光を遮るもの、冷却材を使用するようアナウンスを行った。
- レスキュー艇に体調不良者の確認と冷却材や水分の配布を行うよう対応を呼び掛けた。

【競技再開が決定された際のチェック項目】

- 陸上本部、各運営艇に状況を連絡した。
- 競技者、運営者、応援者、監督は十分に水分を摂取するようにアナウンスをした。
- 体調が悪くなった場合はすぐに運営艇に申し出た上で帰着するようにアナウンスをした。また可能であれば日陰に移動するようアナウンスをした。
- 熱中症患者発生に備え、飲み物や保冷剤、医師の手当てなどをすぐ提供できる環境を整えた。(WBGT 計が 28℃を下回るまでこれらのチェック項目は満たされ続けなければならない)

《中断後、再開しない場合》

レース中止の基準は天候で決められており、基本的にヨットハーバーの基準、また、運営会で協議の上定めた出艇基準に則って、中断の決定を行う。ハーバーが出艇禁止を指示したら、出艇を禁止する。また、天候が WBGT 計やヨットハーバーの条件を満たさなくても競技実行委員長は派遣医師の助言のもと常に競技の中断または中止を決めることができる。

(1) 中止した試合の取り扱い

レースの途中で中止が行われた場合、そのレースはノーレースとなり、無効試合となる。

(2) 中止した試合の後に予定している試合(残りの試合)の取り扱い
東医体期間中に行われるレース数が合計 8 レースになるように、コースを短くする等して 1 日当たりのレース数を増やす。

《 中断後、再開する場合 》

(1) 中断した試合の取り扱い

レースの途中で中断が行われた場合、その試合はノーレースとなり、無効試合となる。

(2) 中断した試合の後に予定している試合(残りの試合)の取り扱い

なるべくその日中に行う。その日中に規定数のレース数をこなすことが困難な場合には別日のレース数を増やすか、短縮コースを用いる。

★中止となった場合の東医体総合得点の配分について

・東医体のヨット競技そのものは予備日含め 4 日間の中で 1 レースでも行われれば成立することになっている。

・1 レースさえ行えば大学の順位は付けられるので、第一回主将会議で決めた得点で配分を行う。

・全レース中止となり順位がつけられなかった場合は各大学均等に配分を行う。

ボート競技

中断のタイミング：

競技中のレースが終わった時。発艇前であれば、5minutes のコールが終わっているレースに関しては続行し、そのレースが終わった後、中断とする。

【WBGT 計が 31℃を超えた際のチェック項目】

- 医師、審判長を含め実行委員で話し合いの場を設けた。
- 本部、審判団（審判長）、各大学主将に状況を連絡した。
- 審判艇及び監視艇より水上の選手、審判員および補助員へのアナウンスをした（健康状態の確認、艇の岸つけ命令、帽子の着用や水分補給の呼びかけ。艇上にて体調不良のクルーがいる場合はそのままレースに参加させることはせず、安全対策係に申し出ること）。
- 本部より陸の選手および応援者へのアナウンスをした（岸けりの禁止、帽子・日傘・テントなどによる日よけや水分補給の呼びかけ）。
- 熱中症患者発生に備え、飲み物や保冷剤、涼しい部屋、医師の手当てなどをすぐ提供できる環境を整えた。
- 体調の優れない選手がいるかどうかを各大学主将に確認するよう指示した。

【競技再開が決定された際のチェック項目】

- 医師、審判長を含め実行委員で話し合いの場を設けた。
- 本部、審判団（審判長）、各大学主将に状況と改定後のタイムテーブルを連絡した。
- 本部より陸の選手および応援者へのアナウンスをした（改定後のタイムテーブルの告知、帽子・日傘・テントなどによる日よけや水分補給の呼びかけ、アップ時間の短縮の推奨。艇上にて体調不良のクルーがいる場合はそのままレースに参加させることはせず、安全対策係に必ず申し出ること）。
- 熱中症患者発生に備え、飲み物や保冷剤、涼しい部屋、医師の手当てなどをすぐ提供できる環境を整えた。
- 水上にいる審判員、補助員に体調不良者がいないか確認した。
- ユニフォーム統一の規則において、帽子着用による不統一を特例として認めることを本部、審判団（審判長、審判艇）、各大学主将に確認・連絡した。

【中止する場合（その日一日の競技が中断される）】

① 中断した試合の取り扱い

レース途中での中断はしない。その時点でのレースが終了した後、以降のレースを中止とする。

- ② 中断した試合の後に予定している試合（残りの試合）の取り扱い
以下の「中断後、再開する場合②」に準ずる

【中断後、再開する場合】

① 中断した試合の取り扱い

レース途中で中断はしない。中断された時点で終了したレースの、次のレースから再開する。

② 中断した試合の後に予定している試合（残りの試合）の取り扱い

1. 一部の種目の予選まで終了している場合、予選が行われた種目はタイムトライアルによってその種目の入賞とする。総合優勝はなしとする。
2. 全種目の予選または準決勝まで行われた場合、各種目は予選のタイムトライアルによって入賞を定め、各種目の合計点数により総合優勝を決定する。なお、準決勝まで行われた種目は、準決勝のタイムトライアルとする。
3. 一部の種目の決勝まで終了している場合、決勝の済んでいる種目はレース結果により入賞を定め、予選または準決勝まで済んでいる種目はタイムトライアルにより入賞を決定し、全ての種目の合計点数により総合優勝を決定する。
4. タイムトライアルにより入賞を定めるとき、タイムトライアルの対象となるのは中止となったレースに出場することが決定していたクルーのみとする。
5. 中止となったレースの出場クルーが予選と敗者復活戦により決定される場合、タイムトライアルは予選のタイムを基準に行う。

【中止となった場合、東医体総合得点の配分】

1. 全ての種目で入賞が決定している場合、通常通りに得点配分を行う。
2. 優勝校が決定しなかった場合、参加校に均等にボート競技の東医体総合得点を配分する。

馬術競技

【WBGT 計が 31℃以上となった際の対応】

- 1 競技実行委員長が各リーグ終了時に競技の中断を行う。
- 2 競技実行委員長(現場責任者)が運営本部・運営部(担当大学)の日直への連絡を行う。
- 3 日直から【WBGT 計が 31℃以上となった際のチェック項目】を行うよう伝えられる。
- 4 競技実行委員長は、その会場にいる大学の代表者を招集する。派遣医師の助言をもとに注意喚起するとともに、中止を視野に入れて協議を行い、多数決をとった上で、競技実行委員長が競技の中止または続行を決定する。
- 5 競技が中止／続行されることが決まったら、競技実行委員長が日直に連絡を行う。
- 6 続行の場合、競技実行委員長は日直に【競技再開が決定された際のチェック項目】をきちんと行ったか確認を受ける。
- 7 中止／再開。

※補足事項

- ・WBGT 計が 31℃以上となったとき、中断は必ず行う。
- ・競技再開後、熱中症発症者が増えた場合、競技実行委員長は競技の中止を検討する。
- ・中断となった際、上記の流れに従いチェック項目を全て点検する。
- ・WBGT 計が 28℃を下回るまで【競技再開が決定された際のチェック項目】を満たし続ける必要がある。
- ・競技実行委員長や WBGT 計の測定者が試合に出ている場合は、代理を立てる。
- ・競技実行委員長が競技会場に不在の場合、代理の現場責任者は事務処理(日直への連絡、競技の中断など)を行い、再開・中止の最終決定は競技実行委員長に電話で連絡をとって行う。
- ・上記の 4 における多数決について、基本的に会場にいる各大学の主将が協議・多数決に参加する。しかし、会場にいる大学数が少ない場合は、審判長・派遣医師の意見を取り入れ、競技実行委員長が最終決定を行う。

【WBGT 計が 31℃以上となった際のチェック項目】

- 獣医師からの助言を得た。
- 審判長からの助言を得た。
- 救護医からの助言を得た。
- 散水を行った。
- 各役員に清涼飲料水を配布した。
- 体調不良の者は申し出るようにアナウンスをした。
- 氷嚢などで体を冷やす行為を行った。
- 水分補給を行う時間を確保した。
- 馬を日陰へ移動させた。

- 馬への水分補給を行った。
- 選手へ乗蘭の着用をしないことを推奨した。
- 応援者を日陰など直射日光が当たらない場所に移動させた。
- 日差しを避ける物の使用を義務化した。(例) 帽子、サンバイザー、日傘など

【競技再開が決定された際のチェック項目】

- 十分に水分を摂取するようにアナウンスをした。
- 体調が悪くなった場合はすぐに大会本部に報告するように促した。
- 馬匹の様子がおかしい場合は予備馬の使用を検討するようアナウンスした。

【悪天候であった場合の中断】

- 1 基本的に雨天決行とする。
- 2 ただし、雷雨で合った場合、雨が小雨であっても馬上は危険なため、中止を検討する。
- 3 また、雨風が強く、走行不可能と判断される場合は、中止を検討する。
- 4 競技実行委員長は、その会場にいる大学の代表者を招集する。中止を視野に入れて協議を行い、多数決をとった上で、競技実行委員長が競技の中止または続行を決定する。
- 5 競技が中止／続行されることが決まったら、競技実行委員長が日直に連絡を行う。

《中止する場合(その日一日の競技が中断される)》

(1) 中断した試合の取り扱い

馬匹を利用するという競技の性質上、即座に中断することは不可能である。

そのため WBGT 計が 31℃以上となった際は、各リーグ終了時に競技を中止する。

(2) 中断した試合の後に予定している試合(残りの試合)の取り扱い

該当日の中断した試合の後に予定している全競技を中止する。翌日以降の試合は予定通り実行する。競技を途中で中止した場合、その時点で勝ち残ったチームすべてに均等にポイントを配分する。競技が一切行われなかった場合、該当競技はポイントに加算しない。(※)

《中断後、再開する場合》

(1) 中断した試合の取り扱い

馬匹を利用するという競技の性質上、即座に中断することは不可能である。そのため WBGT 計が 31℃以上となった際は、各リーグ終了時に競技を中断する。また試合時間の短縮は不可能である。なお、中断が検討される場合は、競技の妨げにならないよう、放送でアナウンスを行う。

(2) 中断した試合の後に予定している試合(残りの試合)の取り扱い

原則として変更なく競技を行う。ただし中断の影響により競技が日没に及ぶなど、馬匹の安全管理

などにおいて競技実行に致命的な支障が生じた場合には該当競技を中止する。

★中止となった場合の東医体総合得点の配分について

第 62 回東医体馬術部門の参加校数は 10 校です。得点配分は表 1 に従い実行する。

表1

参加校数	1 位	2 位	3 位	4 位	合計
5～9	3 点	1.5 点	0.5 点		5 点
10～14	5 点	3 点	1.5 点	0.5 点	10 点

・全競技中止の場合

全参加校に均等に東医体総合得点を配分する。

・一部競技中止の場合

下記の各競技配分案及び※に従い以下のようにポイントを配分し、順位を決定する。順位決定後は表 1 に従い各校への得点配分を行う。

各競技のポイントの配分

	1 位	2 位	3 位	4 位
第 1 競技 ジムカーナ	3	2	1	
第 2 競技 馬場団体	58	38	20	
第 3 競技 障害個人	29	19	10	5
第 4 競技 障害団体	87	57	30	

各競技の合計ポイントが多いチームを勝利とする。同点のチームが出た場合は、以下の順に勝利とする。

- ① 1 位の多いチーム
- ② 2 位の多いチーム
- ③ 3 位の多いチーム
- ④ 4 位の多いチーム
- ⑤ 単一の競技で最大獲得ポイントの多いチーム

ハンドボール競技

中断のタイミング:

WBGT 計で 31℃を超えた場合は直ちに中断する。WBGT 計が 31℃をこえていない場合でも派遣医師が危険と判断した際は同様にハーフタイム中、またはタイムアウトがとられた際に中断する。

【WBGT 計が 31℃を超えた際のチェック項目】

- 現在の会場が熱中症になりやすい環境だということをアナウンスする。
- 体育館での冷房を使用しているか確認する。
- 体育館での換気を行っているかを確認する。
- 関係者すべてに水分・塩分補給をするよう呼びかける。
- 体調が悪い人は無理をせず申し出るように呼びかける。
- 一切の競技活動を控えるよう呼びかける。
- 体を冷やす行為を行うようにアナウンスする。
- 派遣医師の助言を求める。

【競技再開が決定された際のチェック項目】

- 派遣医師に再開の了承を得る。
- 体調不良者がいないか確認する。
- 水分補給・塩分補給を試合中の選手はタイムアウトごと、試合中でない選手は 15 分おきに行う。
- 必要に応じて休憩時間を長めに取った。
- 審判員、補助員、他大会関係者の体調について配慮をした。

《中止する場合(その日一日の競技が中断される)》

(1) 中断した試合の取り扱い

中断した試合を記録し、同じ試合を翌日の最初に中断時から行う。

(2) 中断した試合の後に予定している試合(残りの試合)の取り扱い

下位トーナメントは時間を短縮して行う。本戦・中位トーナメントは通常通り行う。しかしやむを得ない場合短縮も考える。もし下位トーナメントに進むチームが決まっていなければ優先的にその試合を行う。決勝戦や 3 位決定戦が中止となった場合、上位 2 校を優勝、3 位決定戦を争った大学を両方 3 位とする。

《中断後、再開する場合》

(1) 中断した試合の取り扱い

中断した試合を継続して執り行い、時間の短縮はしないものとする。

(2) 中断した試合の後に予定している試合(残りの試合)の取り扱い

残りの試合を試合時間の変更をせずに予定通り執り行う。

★中止となった場合の東医体総合得点の配分について

ハンドボール競技に与えられた得点は 20 点、ハンドボール競技参加大学は 22 大学である。

・ベスト 8 チームが決定していない場合

全てのチームに 1 点ずつ配分する。

・ベスト 8 まで決定している場合

ベスト 8 のチームに 2.5 点ずつ配分する。

・ベスト 4 が決定している場合

ベスト 4 のチームに 5 点ずつ配分する。

・準決勝の結果がわかっている場合

決勝進出大学に 7 点ずつ、3 位決定戦進出大学に 3 点ずつ配分する。

・決勝戦以外終わっている場合

決勝進出大学に 7 点ずつ、3 位に 4 点、4 位に 2 点を配分する。

ゴルフ競技

中断のタイミング:WBGT 計が 31℃を超えたとき、放送で即時中断を呼びかける。また、大会期間中に医療機関の受診が必要と判断された有症者が出たとき、競技を中断する。

【WBGT 計が 31℃を超えた際のチェック項目】

- 体調チェック表を事前に配布し、選手、キャディー、フォアキャディーの体調チェックを行う。
 - ・めまい、立ちくらみはあるか
 - ・頭痛、吐き気、嘔吐はあるか
 - ・不快感、倦怠感、虚脱感はあるか
 - ・痙攣、手足の運動障害はあるか
 - ・意識障害があるか
- 水分補給を行うよう呼びかける。
- 氷嚢などで体温の冷却をできるだけ早く行う
- 指定された待機場所(クラブハウス、ロッジ、木陰)に移動するよう呼びかける。
- 観客、応援者に対してアナウンスをした(WBGT 計が 31℃となったこと、水分補給・塩分補給をすること、直射日光の当たらない場所への移動、体調不良者がいる場合運営本部まですぐに連絡をさせる)。

【競技再開が決定された際のチェック項目】

- ポカリスエットや OS-1 などの経口保水液は十分所持しているか(約 1L)確認する。
- 選手、キャディー、フォアキャディーに体調不良者がいないか確認した。
- 日傘または帽子を着用してプレーすることとする。
- 体調不良を訴えた人をクラブハウスに戻した。
- ギャラリーにできるだけ木陰での送迎を促した。
- 観戦はなるべく木陰でするか、日傘を持参するように注意を促した。
- 体調が悪くなったときは大会運営本部に伝えるように促すアナウンスをした。

《中止する場合(その日 1 日の競技が中断される)》

(1) 中止した試合の取り扱い

a) 予選が中止の場合中止が予選 2 日間の内、1 日のみ中止の場合、18 ホール回りきった日のみを有効とする。中止が予選 2 日間の内、2 日も中止の場合、全員が回りきったホールのみで順位をつける。

b) 決勝が中止の場合決勝戦(1 日)が中止の場合、全員が回りきったホールのみを足し合わせて順位をつける。

(2) 中止した試合の後に予定している試合(残りの試合)の取り扱い

残りの試合は行わない。

《 中断後、再開する場合 》

中断した試合の取り扱い：

中断が選手に到達された際、選手は最後にボールがあった地点にマークをする。またその時点で、そのホールの第何打までを終了したかマーカーと確認し記録する。プレーはそのマークの位置から再開される。

★中止となった場合の東医体総合得点の配分について

競技の順位が決定した場合には、通常通りの東医体総合得点の配分を行う。順位が決定しなかった場合には参加校に点数を均等に配分する。同じスコアの場合には、各校のバーディ数、パー数などを比較し順位を決定する。

順位	1	2	3	4	5	6	7	8	9~
男子得点	10	8	5	4	3	2	1.5	1	0.5
女子得点	10	8	5	4	3	2	1.5	1	0.5

《 医療機関を受診した有症者が陰性だった場合 》

有症者には帰宅してもらおう。

競技を再開する場合は、上記の《 中断後、再開する場合 》に基づいて行う。

《 医療機関を受診した有症者が陽性だった場合 》

競技は中止とする。

中止した試合の取り扱い、東医体総合得点の配分については上記の通りとする。

ラグビー競技

中断のタイミング:

WBGT 計で 28℃以上が計測された時に試合を行っていた場合、審判にその旨を伝え、プレーが途切れた時に審判の指示で一旦中断する。

加えて、審判が自身の熱中症を訴えた場合にも試合を中断する。

※競技の中断の流れ(タイミングは上記に従う)

- ・ 現場責任者はその会場にいる大学の代表者を招集。派遣医師の助言をもとに注意喚起するとともに、中止を視野に入れて協議を行い、多数決をとった上で、現場責任者が競技の中止または続行を決定する。続行の場合は細心の注意をはらって残りの競技を行う。
- ・ 競技が続行されることが決まったら、現場責任者が順天堂大学医学部運営本部に連絡を行う。
- ・ 日直へ連絡し、チェック項目の履行を徹底させる。

【WBGT 計が 28℃以上となった際のチェック項目】

- 10 分おきに水分補給またはスポーツドリンクなどを必ず飲むようにアナウンスした。
- 各チームの代表者を通して確実に体調に関するアナウンスをした。(体調の優れない方は無理せず運営本部に言ってください。など)
- 氷で頭や首などを冷やし、体を冷やす行為を行った。
- 参加者に日陰など直射日光の当たらない所に移動するようにアナウンスした。
- 審判員、補助員、大会関係者、他大会観戦者の体調をこまめに気にし、配慮した。(ドリンクなど)
- フィールド周辺で待機しているマネージャーにこまめな水分補給を促し、帽子などの着用をアナウンスした。

【競技再開が決定された際のチェック項目】

- 身体を冷やしすぎることも怪我につながるので、選手が再度各自でウォームアップをしてから試合再開するようにした。
- 審判員や医師と相談し、water break の回数を増やした。
- water break を含め試合の切れ間に必ず水分を摂取させた。
- 試合終了後は速やかに水分を摂取し、日陰など直射日光の当たらないところに移動した。

《中止する場合(その日 1 日の競技が中断される)》

(1) 中断した試合の取り扱い

中止した状態から同じ状況で翌日の予備日に再開する

(2) 中断した試合の後に予定している残りの試合の取り扱い

翌日の予備日に残りの試合を行う。予備日も気温が高くなることまたは悪天候が予想される場合、競技実行委員長長の判断で試合開催時刻を変更することを検討する。

《中断後、再開する場合》

(1) 中断した試合の取り扱い

中断した時点から時間を短縮せずに、再開できる状況になったら行う。得点はもちろん、一時退場措置も中断時点から計測する。

(2) 中断した試合の後に予定している試合(残りの試合)の取り扱い

(3) なるべくその日中に行うが、時間が間に合わなかった場合は翌日の予備日を用いる。予備日も気温が高くなるまたは悪天候などが予想される場合、競技実行委員長長の判断で試合開催時刻を変更することを検討する。

(4) 競技再開後、熱中症患者が増加した場合、現場責任者は競技の中止を再検討する。

★中止となった場合の東医体総得点の配分について

・ベスト4が決定していない場合

全てのチームに点数を均等に配分する。

・ベスト4が決定している場合

ベスト4のチームに点数を均等に配分する。

競技校数が5～9校の場合

・準決勝の結果が決定している場合

決勝進出大学に2.2点ずつ、3位決定戦進出大学に0.3点ずつ配分する。

・決勝戦以外終わっている場合

決勝進出大学に2.2点ずつ、3位0.6点を配分する

競技校数が10～14校の場合

・準決勝の結果が決定している場合

決勝進出大学に4.5点ずつ、3位決定戦進出大学に0.5点ずつ配分する

・決勝戦以外終わっている場合

決勝進出大学に4.5点ずつ、3位に1点を配分する

競技校数が15～19校の場合

・準決勝の結果が決定している場合

決勝進出大学に6.5点ずつ、3位決定戦進出大学に1点ずつ配分する。

・決勝戦以外終わっている場合

決勝進出大学に6.5点ずつ、3位に2点を配分する。

《悪天候における中断について》

- 公益財団法人日本ラグビーフットボール協会ホームページにて注意されている通り、雷の兆候が見られた場合現場責任者は上述されている「中断のタイミング、競技の中断」に従い中断または続行を決定する。
- 中断後の対応としては上述されている「中断する場合、中断後再開する場合、中止となった場合の東医体総得点の配分について」に従うものとする。
- 参照:公益財団法人日本ラグビーフットボール協会ホームページ 『雷に関する注意』

<https://www.rugby-japan.jp/news/2017/07/08/37453>

